

# 松陽 初の4強入り

又六冊

号外



第63回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会鹿児島県予選高校の部は4月5、6、12、13日の4日間、鹿児島市の市民体育館などであった。女子の松陽は4回戦でシード神村学園、準々決勝で川内商工を下し、創部25年目で県大会初の四強入りを果たした。政純一郎

## 新しい「歴史」作る



女子の松陽が4強入りした。準決勝で鳳凰に敗れ、南九州の出場を果たせなかったが、創部25年にして新人戦、四県予選、県総体、ウインターカップ予選、全ての県大会を通じて初めてのベスト4進出。福田大介監督は高校の先輩の徳田(達治)先生に新しい歴史を作ったと誇られてうれしかった。きつい練習に耐えてきた選手たちに感謝したいと選手の頑張りも称えた。

県大会はこれまでベスト8までは勝ち残る力を持っていたが、1月の新人戦は2回戦で川内商工に敗れた。それまではオフシーズン全体の練習だったけど、ディフェンから

頑張る練習に切り替えた」と福田監督。今大会は4回戦でシード神村学園と対戦。前半リードされるも第3クォーターでひっくり返し、第4クォーターで再び追い上げられたが福永美保主将の3ポイントが決まり、金星を挙げた。余勢を駆って準々決勝では新人戦で敗れた川内商工を下し、越えられなかった8強の壁を乗り越えた。松陽らしいバスケができました」と福永主将(みんながや)らうとしていることがひとつになり、一体感があつた(福田監督)。

最終日は、初めての準決勝の戦いに緊張して自分たちのパフォーマンスがでなかった。松陽らしさ」とは明るく元気良く、最後まで粘り強くみんなが頑張ること。この夏のインターハイ予選は松陽の存在が台風の目になりそうだ。

